編集後記

静岡市に来て4回目の春を迎えました．静岡の春の味覚はたくさんありますが，中でも3月下旬に漁が解禁されるシラスとサクラエビが知られています．3年前まで一度も食べた記憶のなかったものが，今では待ち遠しい春の楽しみになったことを思うと，私もすっかり静岡市民になったものだと感慨深いものがあります．

小さい頃から食べることに興味を持っていたものの，実際に趣味として研究し始めたのはちょうど核融合研究者として職を得た頃からでした．その食の研究の中で導き出された一つの結論らしきことが，「その土地で最もおいしいのは，地元の食材を使った郷土料理である」です．その土地の環境や風土の中で長年培われてきた郷土料理は，淘汰や改良を繰り返し理想形に到達しているものが多く，異なる土地で食べたり，食材を異なる土地で作られたものに替えたりすると，その絶妙なバランスが崩れてしまうという感覚的経験に基づくものです．「あの場所で食べたあれをもう一度食べたい」と思って近場で探して食べてみても，現地で食べた時の感動を超える確率は実際のところ低いと感じます．それは，食材の鮮度の差や質の違いはもとより，食べる場所の気候など，人間の感覚に因る部分も無視できないためではないかと考えています．

ある種進化論的な郷土料理に対して，新しい調理方法や食材の組み合わせによって生み出される前衛的な料理にも注目しています．この試みは伝統からの脱却であり，新境地の開拓といえますが，調理方法や食材の組み合わせは無限で，料理としてまとめるには知恵を絞る必要があります．そこで料理人たちが最近使い始めたのが，科学です．食材の成分を分子レベルまで理解し，調理温度や時間を精密に設定し，味を制御する．そう考えると，料理は歴史と科学にまたがる文理融合の研究領域なのかもしれません．

郷土料理を磨きつつ，前衛料理を生み出すような研究で核融合炉を実現しなければ―そんなことを考えながら，静岡の新茶をすするのでした．（近田拓未）

プラズマ・核融合学会役員

会　　長：小森　彰夫　**副会長**：吉田　善章（推薦委員長：学会賞，男女共同参画委員長）白谷　正治（推薦委員長：研究助成）

常務理事：室賀　健夫（総務委員長）

理　　事：浅野　克彦（財務委員長）　浅野　史朗　上田　良夫（年会運営委員会プログラム委員長）
内野喜一郎（支部・地区研究連絡会委員長）小野　靖（年会運営委員長）　岸本　泰明（研究部会連絡委員長）
草間　義紀　久保　博孝（広報委員長）　坂本　瑞樹
佐々木浩一（企画委員長）　白神　宏之　豊田　浩孝
長谷川　晃　波多野雄治（編集委員長）

監　　事：利根川　昭，森田　純子

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：波多野雄治（富山大）**副委員長**：坂本瑞樹（筑波大）

エディタ：金子俊郎（東北大），坂本瑞樹（筑波大），中村祐司（京大），長友英夫（阪大），小西哲之（京大），酒井　道（滋賀県立大）

編集委員：安堂正己（量研機構），石野雅彦（量研機構），稲垣　滋（九大），伊庭野健造（阪大），太田貴之（名城大），大西直文（東北大），小田昭紀（千葉工大），小田卓司（ソウル国立大），神吉隆司（海上保安大），古閑一憲（九大），齋藤和史（宇都宮大），佐々木徹（長岡技科大），佐藤雅彦（核融合研），清水昭博（核融合研），須田善行（豊橋技科大），高橋裕己（核融合研），高橋光俊（助川電気工業），龍野智哉（電通大），近田拓未（静岡大），仲野友英（量研機構），西塚直人（NICT），比村治彦（京都工繊大），村上朝之（成蹊大），八木重郎（核融合研），八柳祐一（静岡大），柳　長門（核融合研），余語覚文（阪大），渡邊裕樹（首都大）

乱丁・落丁本は，ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください．送料当方負担にてお取り替えいたします．

プラズマ・核融合学会誌第93巻第5号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1　4階
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185　Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp　URL: http://www.jspf.or.jp/

印　　刷　株式会社荒川印刷
2017年（平成29年）5月25日
定価1,300円（税別）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています．